



ひょうご人権ジャーナル

KIZUNA

# きずな

特集“子ども”

地域で育む  
社会のたから

INDEX

- ② 子どもは愛情で育つ  
アグネス・チャンさん(歌手・教育学博士)
- ③ 幼児期における子どもとのかかわりについて  
橋川 喜美代さん(関西福祉科学大学 教育学部 教育学科 教授)
- ④ 子ども虐待防止オレンジリボン運動  
吉田 恒雄さん  
(認定NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク 理事長)
- ⑤ 子どもを信じて寄り添う  
河村 夏代さん(NPO法人 あんずぼこ 理事長)
- ⑥ 地域で子どもを育む  
そのこたやけ食堂・にじっこたやけ食堂 in 園田(尼崎市)
- ⑦ エシカル消費が公正で持続可能な未来をつくる  
柿野 成美さん  
(公益財団法人 消費者教育支援センター 総括主任研究員)
- ⑧ 情報ぷらざ



子どもは社会の宝、健やかに心豊かに成長してほしいものです。しかし、虐待、いじめ、体罰などの深刻な事件が後を絶ちません。また、子どもの貧困は大きな社会問題になっています。

日頃から子どもの心に寄り添って、家庭や学校だけでなく地域全体で未来ある子どもを見守り、育てていくことの大切さについて考えてみましょう。



Profile

1955(昭和30)年香港生まれ。72年に「ひなげしの花」で歌手デビュー。米国スタンフォード大学卒。教育学博士(Ph.D.)。現在、歌手活動のほか、タレント、エッセイスト、大学客員教授など、多方面で活躍。日本ユニセフ協会大使、日本対がん協会「ほほえみ大使」など、多くのボランティア活動も行っている。

私が  
思うこと

子どもは愛情で育つ

歌手・教育学博士

アグネス・チャンさん

アグネス・チャンさんは、子育てと仕事を両立しながら、タレント・大学客員教授等として生き生きと活躍されています。また、日本ユニセフ協会大使として世界の子どもの人権を守る活動もされています。

赤ちゃんは母親に抱かれて、その匂い、その暖かさで安心して眠り、成長します。スキンシップから生ま

れてくる信頼、愛しさが子どもの心を安定させます。十分な栄養を与えられ、適切な刺激を受け、子どもはすくすく育っていくのです。

幼児期になると、子どもは親や周りの大人から励まされ、自分と人の大切さを覚え、優しさを身に付けます。

メリハリのある環境に触れ、知能はどんどん発達していきます。

子育ては命を育む、毎日の作業です。忙しい毎日の生活の中で、大人は子どもに、つい「ちょっと待って」「後でね」と言ってしまうがちです。しかし待たないのが子どもの成長です。だから、できるだけ一緒にいる時間を大事にして、どんな些細な事でも聞いてやり、一緒に考え成長していく事が必要です。

私は3人の息子の母親です。彼らが小さい時には、仕事と育児の両立で毎日が戦争のようでした。

自分の仕事が終わってからの、ご飯を作る時間、子どもたちと遊ぶ

時間、宿題を見る時間、お風呂に入る時間……。本当に寝る暇もないほど、忙しい日々でした。でも、そんな毎日でも、私は決して「時間が無い」とは言いませんでした。子どもたちと一緒に居られるのは、一生のうち、ほんの10数年だけ。そう考えて、思う存分、後悔のないように、仕事以外のすべての時間を子どもと一緒に過ごしました。

そのお陰で、親子は今でもとてもいい関係です。子育ての経験は、これからの私の人生の支えともなっています。

子育ては、子どもに寄り添い、他人と比べる事なく、一人ひとりの違いを認め、その子にあった教育をし、可能性を引き出し、子どもに進む勇気を与えるものだと思います。

日本ユニセフ協会大使になって20年。子どもには4つの基本的な人権があるとされています。「生存する権利」「発達する権利」「守られる権利」そして「参加する権利」。自分の子にも、他人の子にも、この4つの権利がしっかり守られているのかを確認しながら、日々楽しみながら努力していく事が大切です。

# 幼児期における 子どものかかわりについて

関西福祉科学大学教育学部  
教育学科教授

橋川 喜美代 さん  
はしかわ きみや

## 幼児を取り巻く環境

幼児を取り巻く環境は虐待、貧困、犯罪とともに語られることも多く、近年、悪化の一途を辿っています。虐待で命を落とす幼い子どもの痛ましい事件は後を絶ちません。虐待は親だけでなく、保育士が沐浴室に何度も行こうとする一歳女児を全自動洗濯機の中に約一分間放置した事件や、おもしろしに対する厳しいしつけを断行する私立幼稚園の報道にも驚きを隠せません。

こうしたやり方は子どもを萎縮させることはあっても、自らをコントロールする力を育むことではないと言っても過言ではないでしょう。その理由を、ある遊びの会に参加した4歳男児ケイゴ・ソウタ・アキラの3人組が、「凍ったペットボトルのジュースを5分間で溶かしてみよう」という課題に挑む実例から考えてみたいと思います。

幼児の遊びから見た子どもの世界  
ケイゴはボトルに「溶けますように」と祈り、ソウタはボトルに片手チョップを加えていましたが、手で



は無理だと思ったのか、壁にぶつけようとしています。そこで、大人が「どこかにぶつけたらいいならコンクリートの壁で試してみたら」と提案すると、3人は順番にボトルで外壁を叩いて氷を砕き始めました。

そのうちに壁の上方にセミの抜け殻を発見し、競争相手の小学生チームにもそのことを伝えますが、相手にもしてもらえません。すると本来の目的を思い出したのか、アキラが洋服の下にボトルを抱えて走り回ろうと言いつつ、首筋や肩をボトルでトントン叩いたり、走りながら投げ上げたりして大騒ぎしているうちに、時間は過ぎ去ってしまいました。

## 面白さを求める生活

3人組の様子からもわかるように、幼児は目的に向かって一直線に進みません。氷を溶かすということに注意を集中するだけでなく、そ

の過程で起こるさまざまな出来事に心を留め、想像を膨らませていきます。外壁での氷砕きはセミの抜け殻の発見によって軌道を逸れていきますが、3人は仲間の意見を組み入れながら自分をコントロールして、再び氷を溶かす目的に向かっていきます。

集中して根気よく取り組んだり、工夫したり、我慢して先を見通しながら自分をコントロールしたりする力は大人からの強制ではなく、こうした仲間との遊びや生活の中で育まれていきます。子どもは共感してくれる大人に見守られ課題を達成する中で、他者の力を認め合い、自己肯定感を強めていくのだということをこの実例が教えてくれます。

## Profile

大阪府出身。1983(昭和58)年、大阪市立大学生活科学研究科後期博士課程単位取得退学。上越教育大学、鳴門教育大学を経て、2011(平成23)年からは兵庫教育大学で勤務し、本年3月定年退職。4月から現職。専門は幼児教育課程論。保育記録に魅せられ、そこに展開する子どもの育ち・学びを探求している。著書に『保育形態論の変遷』(春風社)など。

# 子ども虐待防止オレンジリボン運動 子ども虐待のない社会をめざして

認定NPO法人  
児童虐待防止全国ネットワーク理事長  
吉田恒雄よしだ つねおさん

## 人権侵害としての子ども虐待

児童虐待防止オレンジリボン運動は、オレンジリボンをシンボルマークに「子ども虐待のない社会」をめざす市民運動です。オレンジリボンを付けることで、子ども虐待をなくしたいとの願いを表し、リボンをきっかけに子ども虐待について会話が始まります。それが大きなうねりとなって社会全体を動かす力になるのです。

子ども虐待は、子どもの命を奪ったり、体にケガを負わせたりするだけでなく、子どもの心に一生残る傷を負わせる行為であり、親と子どもという圧倒的な力関係の差のもと、子どもが避けることのできない状況で行われる人権侵害行為です。

現在、国や自治体は、子ども虐待防止を重要な課題ととらえ、児童相談所や市町村の相談窓口の充実を進めています。しかし、子ども虐待の

防止は、公的機関だけで実現できるものではありません。社会のさまざまな分野の人たちの協力により、はじめて可能になります。

## まずはリボンをつける活動から

オレンジリボン運動は、「一人ひとりができることをして子ども虐待のない社会をめざそう」を合言葉に活動しています。オレンジリボンを付けたり、ポスターを貼ったり、リボンの配布活動に参加したりと、さまざまな活動があります。子ども連れの親御さんに笑顔で接したり、駅の階段下でベビーカーを抱えて困っている人にちよつとしたお手伝いをしたりすることで、親御さんの気持ちや和らぐかもしれません。さりげなく子どもと子育てを見守り支えることが、子ども虐待のない社会につながるはずです。

残念なことに、子ども虐待の報道



は後を絶たず、毎年10日に一人からの割合で子どもが命を落としていきます※。私たちはこうした悲劇が一日も早くなくなるよう、皆様と一緒にオレンジリボン運動を広げ、子ども虐待のない社会が実現することを願っています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

※厚生労働省社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会報告書(平成26年)



## Profile

早稲田大学大学院単位取得退学。駿河台大学法学部教授を経て、2015(平成27)年から学長。専門は民法(家族法)、児童福祉法。児童養護施設等の社会的養護のもとで生活する子どもの権利擁護の問題にも取り組んでいる。社会的活動として、法務省「法制審議会児童虐待防止関連親権制度部会」委員等を歴任。著書は『日本の児童虐待防止法的対応資料集成』(編著、明石書店)など多数。

## 児童虐待防止 24時間ホットライン

こども家庭センター(児童相談所)では、子どもの健やかな成長を願って、子どもと家庭のさまざまな問題について相談援助活動を実施しています。児童虐待の通告や相談については、左記へご連絡ください。

兵庫県	中央こども家庭センター	TEL (078)921-9119
	西宮こども家庭センター	TEL (0798)74-9119
	川西こども家庭センター	TEL (072)759-7799
	姫路こども家庭センター	TEL (079)294-9119
	豊岡こども家庭センター	TEL (0796)22-9119
神戸市	神戸市こども家庭センター	TEL (078)382-2525 (平日8:45~17:30)
	(児童虐待夜間休日相談)	TEL (078)382-1900 (上記以外)

# 子どもを信じて寄り添う

NPO法人 あんずぽこ 理事長

かわむら なつよ  
河村 夏代 さん

## 思春期に寄り添う

学校に行けない自分を責め、苦しんでいる不登校の中学生が、現在10万人を超えています。文科省は「どの子も不登校になり得る」と公言していますが、世間は不登校に厳しいです。そのため不登校の子やその親は、肩身の狭い思いをしています。偏見が当事者をより苦しめ、そのため回復を難しくします。ヒトは群れて社会を形成する動物です。群れから外れることはとても危険で不安なことです。それでも群れから外れるのはよほどのことがあるのです。どの子どももいつか必ず、群れの中に戻っていきたくと願っています。

不登校からの回復は、事故などのトラウマから解放される過程と同様に、情緒面への配慮がとても大切です。家族以外の他者に認められ、自信を回復することが必要です。私たちは、子どもを信じて、焦らずあきらめず、寄り添うことを心がけています。

## 4年前、中学3年生のA子さんの

不登校を機に、昼間の居場所を作りました。通いはじめてA子さんは日ごとに元気になりました。その様子を家族も安心し家庭が平穏になりました。スタッフは元教員なので一緒に勉強したり、ご飯を作ったりしながらたくさん話を聴きました。言い分に耳を傾け、その真摯さをほめ、努力を認め、理不尽さには共に嘆きました。一度も登校を勧めませんでした。A子さんは少しずつ授業に出るようになり、7か月後には学校に戻ることができました。

## 思春期にも子育て支援を

思春期児童の子育てに不安のある親は少なくありません。思春期の不登校は親も子も先の見えない不安でいっぱいになります。不登校の保護者交流会は自助グループの機能があり、子どもの居場所とともに、不登校の回復にとても役立つています。

## Profile

1951(昭和26)年兵庫県生まれ。大学卒業後芦屋市立中学校に勤務。その後私立夙川学院で非常勤講師をしながら大学院で「教師と生徒の感情に関する研究」を始め、学校心理士・臨床心理士の資格を取得。スクールカウンセラーとして勤務する一方で研究を続け、2008(平成20)年に関西大学で学位を取得。関西大学の非常勤講師などを経て、2013(平成25)年6月、不登校の子どもの昼間の居場所を開設し、12月からNPO法人。現在は、西宮市でスクールカウンセラーとしても活動している。



## NPO法人 あんずぽこ

所在地 西宮市甲陽園西山町2-1

TEL 0798(75)2618

URL <http://anspoco.sakura.ne.jp>



スタッフを交えた保護者交流会。子育ての悩みを語り、共有することで不安を解消します。

今春は当法人が支援した9人が高校に進学しました。しんどい時は立ち寄り、愚痴をこぼしながらしなやかに自立していったほしい。あれから4年、A子さんは今春大学に進学しました。将来は「あんずぽこ」のスタッフになりたいと言っています。ここから巣立った子どもたちが将来、弱者を包摂する社会の担い手になってくれるよう願っています。



## きずな映画館

## ぼくと魔法の言葉たち



監督:ロジャー・ロス・ウィリアムズ  
アメリカ映画、91分。  
シネ・リーブル神戸で公開中。  
お問い合わせは、シネ・リーブル神戸  
078(334)2126

自閉症により2歳で言葉を失ったオーウェンが、家族の支えもあって、やがて自立していく姿を追ったドキュメンタリーです。大学を卒業してアパートでの自活を始め、恋人との付き合い方に悩む現在の状況と、彼が言葉を取り戻して周りの人たちとの関係を作っていた過程が描かれています。何よりも大きかったのが、ディズニリアニメとの出会い、とりわけアニメの脇役たちへの共感でした。オーウェンはセリフをすべて覚えていて、社会の仕組みを理解する手段として活用していたのです。そのことを発見し、彼との会話が取り戻せた家族の喜びも大きいものがありました。オーウェンの頭の中をアニメで表現してみた手法、異例の使用許諾を得て可能になった様々なディズニリアニメの挿入も成功しています。両親と兄がオーウェンに示す愛情の深さがベースにあって、家族愛を描いた作品ともいえます。障害者(児)を受け入れシビアに見つめる周りの人たちの姿勢の大切さが基本ということがよく分かります。

# 地域で子どもを育む

そのっこたやけ食堂・  
にじっこたやけ食堂 in 園田(尼崎市)



みんなで食べると、  
一層おいしく感じます。



やわらかいフロア  
マットのスペース  
は子どもたちのお  
気に入り。

(写真上・下)にじっこたやけ食堂in園田

今、「子どもの貧困」が社会問題化し、その対策の一つとして、子ども食堂の取り組みが広がっています。尼崎市園田地区では、園田地区子育て支援連絡会※が中心となり、2つの子ども食堂を運営しています。

## 居場所づくり

さまざまな理由から、一人で夕食をとる子どもたちがいるという状況を改善するため、園田地区子育て支援連絡会は、2016(平成28)年4月に「そのっこたやけ食堂」を立ち上げました。

金曜日の16時になると、かつての喫茶店を利用した「そのっこたやけ食堂」がにぎわい始めます。友だちと連れ立ってくる子どもたち、親子連れの姿も見られます。ここはみんなで楽しくご飯を食べたり、宿題やおしゃべりをしたりする温かい「居場所」です。食事を調理するのは

ボランティアの方々。食材は地域の農家から提供されることも多いそうです。「長く続けるためには、衛生と安全の確保、地域の協力が欠かせない」と尼崎市社会福祉協議会園田支部の足立博昭事務局長は話します。道路に面した食堂付近で遊ぶ子どもたちを、ボランティアがにこやかに見守り続けています。

## 地域のつながり力を結集

2016(平成28)年10月には、2号店と位置づけた「にじっこたやけ食堂 in 園田」がオープンしました。生活協同組合コープこうべコープ園田の登録サークル「子ども食堂支援隊」が中心となって園田店に並設する組合員集会所で立ち上げたもので、特徴的な取り組みが話題を集めています。それは、コープ園田の「店頭には出せないが、賞味期限内の商品」を提供するという試み。これまでに、賞味期限が近づいたり、宅配で返品されたりした商品は廃棄するしかありませんでした。それを子ども食堂に無償提供することにしたのです。社会問題化している食品ロスを緩和する意味からも注目されています。

「食育も大切にしている」という代表の上田由美子さんは、提供された食材を選びながら、栄養の偏りがないように

新たな食材も買い足します。「栄養バランスのとれた食事」を知ってほしいという思いからです。「おいしいー」という声を聞いたり、「この料理の作り方を教えてほしい」と頼まれたりすると、ボランティアの方々のやりがいも高まるそうです。また、「コミュニケーションを求めて食堂に来る保護者も多いといいます。子育てのベテランでもあるボランティアの方々は、良き相談相手でもあるのです。「老若男女が気軽に集える居場所を作りたい」と願う上田さんの夢が現実に向けて動き出しています。

「地域の子どもの成長を地域みんなで応援しよう」というスローガンのもと、子ども食堂の運営や講演会の開催など、園田地区子育て支援連絡会の活動が広がりを見せています。

※当初のメンバーは、NPO法人愛逢、コープこうべコープサークル「ぼこぼこ」、尼崎市子ども青少年局、子ども政策課・青少年課、市民協働局園田地域振興センター、健康福祉局生活支援相談課の子ども育ち支援ワーカー、尼崎市社会福祉協議会園田支部。現在は19団体・機関が参加。2ヶ月に1回の会議を行い、地域の子育て支援について活動している。

### 【そのっこたやけ食堂】

実施日時 毎週金曜日 16:00~19:00  
場所 元喫茶セビア(尼崎市園田町瓦宮1丁目5-13)

### 【にじっこたやけ食堂 in 園田】

実施日時 第2・4水曜日 16:00~19:00  
場所 生活協同組合コープこうべコープ園田(尼崎市東園田町4)

### 費用

中学生までは無料 高校生以上(大人)300円

# きずな TOPIC

消費者と人権

## エシカル消費が 公正で持続可能な未来をつくる

公益財団法人消費者教育支援センター 総括主任研究員

柿野 成美さん

「誰かの犠牲によって作られた商品を買いたい人はいますか？」

私は講演会でよくこの質問をしますが、今まで手を挙げた人はいません。でももしも、私たちが買っている商品の生産過程で、誰かの人権が犠牲になっているとしたら？

毎日の買い物で何を選ぶかは、その商品や作っている企業を応援することに繋がると、まさに投票行動です。例えば、チョコレートを選ぶ基準は人それぞれですが、チョコレートは原材料であるカカオ豆の生産に児童が関わっている可能性があり、知らぬ間に買っているチョコレートが学校に行くべき就学年齢の子どもたちを奴隷的に働かせていることを結果的に応援しているとしたら、どうでしょうか。

私たちには、それを避ける方法がありません。それは、フェアトレード製品や認証された原材料の調達システムを採用している企業の商品を選択することです。あるいは、売上の一部を生産地に送り、適正な価格で

継続的に取引を行う仕組みを作っている企業を応援することです。

しかし、このことを私たち消費者が知らなければそのような企業の取組も継続できず、問題解決から遠のいてしまうのです。最近では、より良い社会に向けて、人や社会・環境に配慮した消費行動のことを「エシカル消費」と言い、消費者庁でも研究会が立ち上がっています。

このような点に配慮した商品は、他の商品よりも少し価格が高いのが現状です。買い物での意思表示が難しい場合には、自分が応援したい企業の生産過程で誰かが犠牲になっていないかどうか、問い合わせしてみてください。企業に届いたあなたの声が、社会を変える一歩になるかもしれません。



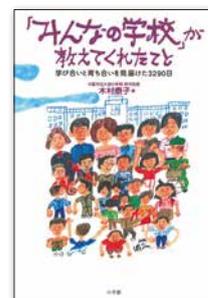
### Profile

静岡大学教育学部卒業、お茶の水女子大学家政学研究科修了後、1998(平成10)年より消費者教育支援センターに勤務。2013(平成25)年4月から現職。最近の主な著書に、『先生のための消費者教育ガイドー公正で持続可能な社会をめざしてー』、『エシカルアクションガイドブック「私たちの行動が未来をつくるめざせ!消費者市民ー」(いずれも消費者教育支援センター)がある。

### きずな図書館

「みんなの学校」が  
教えてくれたこと  
学び合いと育ち合いも見つけた3290日

著者 / 木村泰子 発行所 / 株式会社小学館



「みんなの学校」は、大阪市住吉区にある「大阪市立大空小学校」の1年間を追ったドキュメンタリー映画です。大空小学校では、「自分がされていやなことは人にしない」というたった一つの校則と、「すべての子どもたちの学習権を保障する」という教育理念のもと、障害のある子どももいない子どももすべての子どもが、ともに同じ教室で学んでいます。全校生の1割以上が要支援児童であるにも関わらず、不登校生はゼロ。他の小学校ではなじみなかった子どもも、この学校の学びのなかで、自分の居場所を見つけ、いきいきと成長します。また、まわりの子どもたちもそのような子どもたちとかわりながら、大きな成長を遂げていきます。本書には映画で取り上げられた学校でのエピソードや学校に携わる人たちの心の変容が描かれています。映画「みんなの学校」は、教育上価値が高く、学校教育や社会教育に広く利用されることが適当と認められるとして、平成27年に文部科学省特別選定となりました。

## 子どものSOSをキャッチする「子どもの人権110番」

「いじめ」や体罰、不登校や親による虐待といった、子どもをめぐる人権問題は、周囲の目につきにくいところで発生していることが多く、また被害者である子ども自身も、その被害を外部に訴えるだけの力が未完成であったり、身近に適切に相談できる大人がいなかったりする場合が少なくありません。

「子どもの人権110番」は、このような子どもの発する信号をいち早くキャッチし、その解決に導くための相談を受け付ける専用相談電話であり、子どもだけでなく、大人もご利用可能です。

電話は、最寄りの法務局・地方法務局につながり、相談は、法務局職員又は人権擁護委員がお受けします。相談は無料、秘密は厳守します。法務省のホームページでも相談を受け付けています。



### 電話番号

フリーダイヤル

**0120-007-110**

全国共通・無料

### 受付時間

平日午前8時30分から

午後5時15分まで

注)一部のIP電話からは接続できません。

## EVENT GUIDE

イベントガイド



### イベント名 篠山市民人権のつどい～人権啓発研修会～

日時 5月2日(火)19:30～

場所 四季の森生涯学習センター 多目的ホール

※JR篠山駅西口より「神姫グリーンバス篠山営業所(図書館)」行き乗車約5分、「福祉センター」下車すぐ

内容

講演「障がいのある人もない人も、共に暮らせるまちづくりを進めるために」  
講師 玉木 幸則さん(社会福祉法人西宮市社会福祉協議会 障害者総合相談支援センターにのみやセンター長)

その他

申込不要 無料

問い合わせ

篠山市民生活部人権推進課 TEL 079(552)6926

### イベント名 姫路市人権学習地域講座

日時 5月18日(木)14:00～

場所 姫路市立図書館網干分館※山陽電車網干駅下車西側すぐ

内容

講演「保護者・地域と学校の連携でいじめ問題の解決を  
—大津市第三者委員の経験から見えて来るもの—」

講師 西林 幸三郎さん(大阪芸術大学初等芸術教育学科教授)

その他

申込不要 無料

問い合わせ

姫路市人権啓発センター TEL 079(282)9801 FAX 079(282)9820

※その他のイベント情報は、当協会ホームページ「研修会・イベント情報」をご覧ください。

ラジオ関西「谷五郎のこころにきくラジオ」(毎週月曜10:00～15:00)で、  
14:35分頃から「きずな」の記事を紹介しています。

### HALF TIME



子どもにまつわる人権課題は多岐にわたります。本号を通じて読者の皆様と共に考えたかったことは、それらの課題解決のために私たち一人ひとりに何ができるかということです。取材に伺った園田地区子育て支援連絡会の「子ども食堂」の取り組みに、そのヒントがあるように思いました。

「地域力」の低下が問題となっている今、住民、学校、企業、行政等が一体となり、地域をあげて子育てを支援している取り組みに感銘を受けました。私

たちも緩やかにつながりあって、子育て世帯の孤立を防ぐことが、課題解決につながる有効な方法ではないでしょうか。

昔からつながりを大切にしてきた園田地区ですが、子どもを中心とした取り組みを通じて、「地域力」がさらに高まっていると感じました。そして、このような活動は他の人権課題解決にも通じていくのだと思います。

